

平成21年11月16日

関係機関長および関係各位

京都大学防災研究所長
岡田 憲夫

教員の公募について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当研究所は「災害に関する学理の研究及び防災に関する総合研究」を目的とした全国共同利用の研究所であり、5研究部門・6附属研究センターによって構成されています。このたび、「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」と認定され、平成22年度よりより広範な共同利用・共同研究を推進すべく準備を進めております。

このたび、下記の通り教員を公募することになりました。つきましては、ご多忙中の所、まことに恐縮でございますが、関係各位の皆様方にご連絡いただくとともに、適任者の応募についてよろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 公募人員： 助教1名
2. 所 属： 地震・火山研究グループ 地震予知研究センター 地殻活動研究領域
3. 研究内容等： 飛騨地域での地震・火山活動や活断層への応力集中過程、あるいはテクトニクスの研究等を通して、内陸地震の発生過程の究明に力を発揮する人材を求める。加えて、関係分野の研究者と協力しながら、上宝観測所で行われている観測研究を継続する。さらに、焼岳火山の研究を軸として、穂高砂防観測所との協力も行う。
また、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の教育を担当する予定である。
4. 任用時期： 平成22年4月1日以降の可能な限り早い時期
5. 勤務地： 上宝観測所(最初の5年程度, その後は宇治地区勤務の予定)
住所：岐阜県高山市上宝町本郷2296-2
6. 応募資格： 博士の学位を有すること
国籍は問わないが、日常的に日本語が使えること。
7. 提出書類： 次の(1)~(6)各一式
 - (1)履歴書
 - (2)研究業績一覧(Peer Reviewed Paperおよびその他に区分けした論文、著書等の一覧表)
 - (3)主要論文別刷(コピー可) 5編
 - (4)研究業績の概要(A4用紙2枚以内)
 - (5)今後の研究計画及び抱負(A4用紙2枚以内)
 - (6)推薦書または応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先
8. 公募締切： 平成22年1月15日(金)【必着】
9. 書類提出先：〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付

地震予知研究センター 地殻活動研究領域助教選考委員会 宛

(封筒の表には「**教員応募書類**在中」と朱書し、郵便の場合は書留にすること)

10. 問い合わせ先：〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室

地震予知研究センター 地殻活動研究領域助教選考委員会

e-mail: apply_staff@dpri.kyoto-u.ac.jp

(封書またはEメールに限る)

11. その他：

応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。

なお、京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待しています。

京都大学防災研究所 地震予知研究センター 上宝観測所の概要

新潟から岐阜県北部を経て神戸に至る新潟・神戸歪集中帯は、日本列島内帯でも測地学的歪み速度の最も速い地域であり、平成16-20年度には跡津川断層を中心とする歪み集中帯の合同観測が実施された。平成21年度からは測地学審議会の建議「地震・火山噴火予知のための観測研究計画の推進について」に沿って「飛騨山脈における地殻流体の動きの解明」プロジェクトが開始された。このプロジェクトでは、飛騨山脈とその周辺で「地殻流体」をキーワードにして、歪み集中帯の活断層と活火山の関係を解明する観測研究の推進が謳われている。また、飛騨山脈は、1年に数ミリメートルを越える非常に速い隆起が生じ、活断層や活火山が多く分布し、頻繁に群発地震活動が発生するなど地球科学的に極めて興味深い地域である。このような状況の中で、飛騨山脈の麓に位置する上宝観測所は、歪み集中帯合同観測において観測基地の役割を果たすと共に、現プロジェクトにおいても、上宝、穂高砂防両観測所に近い焼岳火山が重要な研究対象であることもあり、欠くことのできない観測研究の基地となっている。

地震予知研究センターは、現在上宝観測所を基地として以下のような定常観測を行っている：

- (1) 10点の衛星観測点と多数の臨時観測点における高感度地震観測
- (2) 蔵柱観測室（上宝町蔵柱）と宝立観測室（石川県珠洲市）での広帯域地震観測
- (3) 蔵柱、立山（富山県立山町）両観測室などにおける横穴式観測坑による伸縮計および傾斜計による地殻変動連続観測
- (4) 跡津川断層西端付近の西天生（飛騨市）および宝立観測室でのプロトン磁力計による全磁力観測、および蔵柱観測室におけるフラックスゲート磁力計による3成分磁力観測

さらにHi-net観測点など他機関のデータも集積し、飛騨から中部地方中北部一帯の地殻構造、地震活動、地殻変動の解析を行っている。また、必要に応じて地元自治体等に対し、地殻活動情報などの防災関連情報の提供も行っている。

京都大学防災研究所 地震予知研究センターの概要

当センターは平成2年6月に、地震予知に関する基礎研究を行うとともに、学内外の研究者との共同研究を推進し、地震発生の原因と機構を解明し、最終的に地震予知手法を確立し、地震災害の

軽減のための基礎的な方法の確立を目的として設立された。平成17年4月の改組に伴い、7研究領域（内容員1）と8観測所の構成となった。地震防災研究部門、震災害研究部門、火山活動研究センターと地震・火山研究グループを構成するとともに、他グループとも連携して研究を行っている。

今世紀半ばには、南海トラフ沿いのプレート間巨大地震の発生確率がピークに達するとされている。それに向けて、内陸被害地震も増えると予想される。このような地震による被害の軽減を目指して、南海トラフ沿いの巨大地震の予知研究、内陸地震の予知研究、および研究成果の社会への効果的な普及・教育を当センターの3本柱として強力に進めている。

地震予知研究へのアプローチを行う研究領域には、「海溝型地震研究領域」、「内陸型地震研究領域」、及び「地殻活動研究領域」の3研究領域がある。「海溝型地震研究領域」では、地震観測、広域の測地観測、歪・傾斜観測等により、プレート境界の大地震震源域における歪蓄積過程のモデル化を進め、歪エネルギー評価手法の開発を目指す。「内陸型地震研究領域」では、地震や地殻変動などを総合し、内陸地殻の変形と内陸地震の断層における応力集中の研究を進める。「地殻活動研究領域」では、地震活動、地殻変動はじめ地殻・マントルに発現する諸現象とプレート境界地震や内陸地震の発生との関連性について究明し、さらにその成果に基づき地震発生予測手法の高精度化を図る。さらに、「地震予知情報」研究領域では、他の研究領域と連携して、地球科学的各種観測データの収集とデータベースの構築を行い、それらに基づき、地震予知情報の評価手法および効果的な利用方法の研究を推進する。

「地球計測」と「リアルタイム総合観測」研究領域では先端的な観測研究を進めており、前者は、地震に伴う地学的現象を記録・解析するための、新しい観測手法や計測技術の開発研究を行う。後者は、地震の発生機構や地殻活動の推移予測に関する研究の高度化のために、特に進行中の地殻活動をその活動域で直接捉える地震・地球電磁気等の総合的な観測研究を行う。

基礎的研究領域として「地球物性研究領域（客員）」があり、地震発生においてもっとも重要な要素である地球内部の構造や物性に関して広範な視点から研究が進められている。

また、当センターには上宝、北陸、阿武山、鳥取、屯鶴峰、逢坂山、徳島、宮崎8観測所が配置されており、地震・地殻変動連続観測など定常観測やプロジェクト研究の基地として、地震防災部門の関連分野の協力を得ながら運用されてきた。また、研究成果の社会への効果的な普及・教育に貢献しているものも多い。しかしながら、近年、データ伝送技術の進歩等により、観測所の役割が変化しているため、次期中期計画の間に、観測所の整理統合を行い、研究資源を新たなプロジェクト等に効果的に集中する体制をとる予定である。具体的には、上宝観測所および宮崎観測所、阿武山観測所は、関連する組織と連携して観測研究基盤施設（仮称）として運営し、プロジェクト研究や研究成果の社会への還元等に活用する予定である。

当センターは、これまで内陸地震の研究のための高感度地震合同観測、電磁気共同観測、GPS大学連合同観測や、断層解剖計画等において、多くの大学等との共同研究を行ってきたが、平成21年度から始まった「地震・火山噴火予知のための観測研究計画」においても、他大学や他機関などと協力して地殻活動予測システムの構築を目指した共同研究を推進している。

当センターは、地震・火山研究グループの他部門や他グループと連携して研究を行っているが、特に連携の深い地震防災研究部門との関係を以下に述べる。地震防災研究部門には、「地震発生機構研究分野」や「地震テクトニクス研究分野」があり、地震防災のうち特に「災害の長期的予防」を命題として、大地震が起こる過程を長期的予測に沿って検討する研究を進めている。具体的には、

地震学・地球電磁気学的手法等により、地震発生場の研究・長期予測の視点に立った地震発生準備過程の研究、および地震の震源過程・発生機構の研究などを推進することにより、地震災害の軽減に寄与することを目指している。当センターは、主に、現在生起しつつある現象の解明を進めているのに対して、地震防災研究部門関連分野は、より長期的な視点に立った地震発生予測に関する基礎研究とその成果の耐震研究への橋渡しを行おうとしている。地震発生予測に関する基礎研究は、当センターが行っている現在の研究に生かされる。

 センターの組織と教員構成（平成21年1月1日現在）

当センターには組織上、下記の7研究領域および8観測所が設けられているが、多くのプロジェクト的な研究や観測の実施に当たっては、教員は随時研究チームを作り研究活動を行っている。

（研究領域と構成員）

	教授	准教授	助教
地殻活動研究領域	川崎一郎	遠田晋次	徐 培亮 (空席：本公募の対象)
海溝型地震研究領域	橋本 学	渋谷拓郎	福島 洋 (空席：選考準備中)
内陸地震研究領域	飯尾能久*	深畑幸俊	大谷文夫
地震予知情報研究領域	西上欽也	竹内文朗	加納靖之 寺石眞弘**
地球計測研究領域		柳谷 俊	森井 互
リアルタイム総合観測研究領域		片尾 浩	(空席：公募中)
地球物性研究領域（客員）	日置幸介		
（注記）*	阿武山観測所勤務		
**	宮崎観測所勤務		

 観測所教職員配置

	所長	担当教員	協力教員	技術職員	非常勤職員
上宝観測所：	大見士朗		川崎一郎 飯尾能久 森井 互 加納靖之	和田博夫	
北陸観測所：	西上欽也		川崎一郎 竹内文朗	平野憲雄	
阿武山観測所：	飯尾能久		片尾 浩 深畑幸俊	米田 格	
鳥取観測所：	渋谷拓郎		吉村令慧	中尾節郎	中尾愛子
逢坂山観測所：	飯尾能久	森井 互	片尾 浩 加納靖之		
屯鶴峯観測所：	飯尾能久	大谷文夫	森井 互 川崎一郎	藤田安良	

徳島観測所：片尾 浩

西上欽也

近藤和男

澁谷拓郎

宮崎観測所：大志万直人

寺石真弘

大谷文夫

園田保美

年見文子

(は観測所勤務、 は地震防災研究部門所属教員、 は再雇用技術員)